

令和4年度シラバス（国語）

学番28 新潟県立村上桜ヶ丘高等学校

教科（科目）	国語（現代の国語）	単位数	2単位	学年	1年次
使用教科書	『現代の国語』（筑摩書房）				
副教材等	尚文出版『常用漢字オールクリア五訂版』、浜島書店『新訂版最新国語便覧』 数研出版『正しく読み・解くための力をつける現代文ステップ1. 5』				

1 学習目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2 指導の重点

進学・就職等、希望進路が多岐にわたっていることから、

- (1) 基本的な言語事項の習得を重視し、特に常用漢字の確実な習得を目指します。
それをもとに、文章を的確に理解した上で自分の考え方を確立させることを目指します。
- (2) 他者との関わりの中で自分の思いや考えを伝え合うことで、積極的にコミュニケーションを図り、論理的に考え、共感したことや想像したことを言葉を通して表現していく力を養います。
- (3) 文章に関連する本を紹介し、実社会との関わりを考えるための読書の意義と効用について理解を深めます。

これらを中心に、実社会に必要な資質・能力を養います。

3 評価規準と評価方法評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにしている。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。

4 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います			
	知識・技能 a	思考力・判断力・表現力 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	・実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにしている。	・「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	・言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言や発表、学習活動への参加状況の観察 ・定期考査の結果 ・授業内小テストの結果 ・ノートやワークシート、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 などから、総合的に評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言や発表、学習活動への参加状況の観察 ・定期考査の結果 ・授業内小テストの結果 ・ノートやワークシート、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 などから、総合的に評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言や発表、学習活動への参加状況の観察 ・ノートやワークシート、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 などから、総合的に評価します。

5 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動(指導内容)	評価の観点	評価方法
4 5	第1章 問うこと、語ること	5 A 話すこと・聞くこと	川上弘美「境目」	・具体的な体験をひとつのことばでつなげて書き出す。 ・互いに紹介し合い、表現した理由等、自分の考えを説明する。 ・話し合ったことを踏まえて、自分の体験をグループで発表する。	b c	・ワークシート(記述の確認) ・発表の様子(行動の確認)

5	第2章 評論文への招待	4 C 読むこと	内田樹 「ことばとは何か」	<ul style="list-style-type: none"> ・具体例や比喻から抽象的な考えを読み取る。 ・日本語にあって他の言語にはない名詞を調べ、互いに紹介する。 	a c	<ul style="list-style-type: none"> ・ノート(記述の点検) ・振り返りシート(記述の確認)
	第2章 評論文への招待	4 C 読むこと	黒崎政男 「デジタル社会」	<ul style="list-style-type: none"> ・術語に注目しながら、筆者の主張を正確に読み取る。 ・辞書で示されている意味と、本文中の意味の違いを考える。 	b c	<ul style="list-style-type: none"> ・ノート(記述の分析) ・振り返りシート(記述の確認)
5 7	第3章 ことばで伝える思いと考える	6 B 書くこと	中村桃子 「ことばがつくる男と女」	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の構成に着目し、どのような効果や役割を果たしているか考える。 ・文章の構成と効果を踏まえ、テーマに沿った意見文を書く。 	a c	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート(記述の分析) ・発表の様子(行動の確認)
	第3章 ことばで伝える思いと考える	6 B 書くこと	松村圭一郎 「贈り物と商品の違い」	<ul style="list-style-type: none"> ・本文中におけるカギ括弧の使われ方から、筆者の意図を読み取る。 ・カギ括弧を使用したエッセイを書く。 	b c	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート(記述の確認) ・取り組みの様子(行動の確認)
7 9	第4章 情報と推論	3 C 読むこと	E・シートン 内山賢次訳 「兎が自分でつづって語る生活の話」	<ul style="list-style-type: none"> ・写真や絵を参考に、筆者の思考や発見、感動を迫体験し、推論する力を育む。 ・図表やことばの中から、読み取れることを文章にまとめる。 	a b	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート(記述の分析) ・ノート(記述の点検)
	第5章 「話し合い」から「議論」へ	6 A 話すこと・聞くこと	宇野重規 「〈私〉の時代のデモクラシー」	<ul style="list-style-type: none"> ・「近代」の考え方を把握し、民主主義の基礎としての議論の方法を学ぶ。 ・関心を持った社会問題やニュースについて建設的に話し合う。 	b c	<ul style="list-style-type: none"> ・ノート(記述の分析) ・活動への参加の様子(行動の確認) ・振り返りシート(記述の確認)
	第6章 「根拠」から「主張」へ	4 C 読むこと	若林幹夫 「魔術化する科学技術」	<ul style="list-style-type: none"> ・論の構成を意識しつつ、筆者の主張を自分のことばで要約する。 ・筆者の論をよりよく理解するために、周囲の人と要約を読み比べる。 	b c	<ul style="list-style-type: none"> ・ノート(記述の分析) ・取り組みの様子(行動の確認)
9 12	第7章 伝えること、受け止めること	6 A 話すこと・聞くこと	国谷裕子「ポスト真実時代のジャーナリズム」	<ul style="list-style-type: none"> ・情報と社会の関係を考え、情報を適切に判断する資質や能力を養う。 ・情報の発信者としてのメディア・リテラシーを考え、話し合う。 	c	<ul style="list-style-type: none"> ・活動への参加の様子(行動の確認)
	第7章 伝えること、受け止めること	3 A 話すこと・聞くこと	ビブリオバトルに挑戦しよう	<ul style="list-style-type: none"> ・読書に親しむ。 ・書評ゲームを通して、本について語り合う楽しさを体感する。 	b c	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート(記述の確認) ・発表の様子(行動の確認) ・振り返りシート(記述の確認)
	第8章 表現のみがき方	6 B 書くこと	山田登世子 「贅沢の条件」	<ul style="list-style-type: none"> ・単純な枠組みにとらわれない概念を二項対立で整理し、その本質を理解する。 ・二項対立の構図を用いて、自分の主張を論説文に書く。 	a c	<ul style="list-style-type: none"> ・ノート(記述の点検) ・取り組みの様子(行動の確認)
8	第8章 表現のみがき方	5 B 書くこと	堀江敏幸 「瓦は解かないこと」	<ul style="list-style-type: none"> ・イメージの連鎖や比喻を用いて、文章を表す。 ・漢字を組み合わせる新しい意味を表す熟語を作り、その意味を説明するエピソードを書く。 	b c	<ul style="list-style-type: none"> ・ノート(記述の点検) ・取り組みの様子(行動の確認)

1 2 3	第9章 主張の論理的な伝え方	7 B 書くこと	國分功一郎 「来るべき民主主義」	<ul style="list-style-type: none"> ものごとを根本から問い直していく議論の組み立て方を学ぶ。 感銘を受けたことばを書き出し、その背景について周囲の人に説明する。 	a c	<ul style="list-style-type: none"> ノート (記述の点検) 活動への参加の様子 (行動の確認) 振り返りシート (記述の確認)
	第10章 複眼的な視点	5 C 読むこと	大沢真幸 「リスクと近代社会」	<ul style="list-style-type: none"> 自身の考えを相対化して新たな問いを生み、本質に近づいていく論理の手法を学ぶ。 	b c	<ul style="list-style-type: none"> ノート (記述の分析) 振り返りシート (記述の確認)

計 70 時間 (50分授業)

※領域ごとの授業時数合計

領域ごとの 授業時数合計	A「話すこと・聞くこと」 20 時間	B「書くこと」 30 時間	C「読むこと」 20 時間
-----------------	-----------------------	------------------	------------------

4 課題提出物等

- 副教材のテキストの内容から、毎週漢字の小テストを実施します。
- 長期休業中の課題は別途指示し、休業明けには課題テストを実施します。
- 学習内容に関連した課題を随時課します。
- 上記の小テストの結果や課題の内容、提出状況は評価に含めます。

6 担当者からの一言

「現代の国語」は実生活に生きる社会の形成者として必要な国語の能力を育成する科目です。国語や言葉の知識を身に付けることに加え、論理的に考え、他者との関わりの中で共感したり想像したりする力や伝え合う力を伸ばし、自分の思いや考えを広げたり深めたりしていきましょう。こうした力は、さまざまな学習に生きる力です。受身ではなく、目的意識を持って、意欲的に取り組むことを期待します。